

2021.5.20

「脈波の反射波成分による動脈硬化評価法の開発」研究データの取り扱いについて

① データの利用目的及び利用方法

2019年度に終了した上記の研究で臨床計測された測定結果は、高齢者に特徴的な脈波波形として重要な情報をもっています。そこで、継続して行われている同志社大学の研究「圧電センサを用いた頸動脈・脳動脈閉塞の簡易評価手法の開発」においても、脈波の新たな解析手法開発のためのデータとして利用します。

② 利用するデータの内容

2017-2019年度に、同志社大学の学内及び学外で圧電センサシステムにより計測された頸動脈波波形データおよび超音波ドップラーで計測された血流データ。これらのデータ取得時にアンケートで得られた服薬状況・年齢・性別などの情報。これらの情報は連結不可能匿名化されて管理されています。(被験者の名前は記録していません)

③ 利用する者の範囲

「圧電センサを用いた頸動脈・脳動脈閉塞の簡易評価手法の開発」に参画する以下の研究者。  
同志社大学理工学部、松川真美・小山大介・大崎美穂・大学院生1名・学部生2名

④ データの管理責任を有する者の氏名又は名称

同志社大学理工学部 超音波エレクトロニクス・応用計測研究室

以上